



令和4年1月21日
令和3年度学校だよりNO.44②
加古川市立平荘小学校

狂言の練習を頑張っています（6年生）

1月17日（月）の山口耕道先生のご指導を受け、6年生が、2月17日（木）の狂言学習発表会に向けて練習に励んでいます。

今日の練習は、17日の練習よりも、もっともっと気持ちを込めて表現ができるようになりました。平荘小学校狂言学習に対する思いも、そこに加わり、一層練習に力を入れています。



練習に入る前に、6年生で、『どんな狂言発表会にしようか』と確認をしました。

はじめに、「平荘地区にある小学校の狂言発表会」であることを話しました。平荘地区の皆様を支えていただきながら、21年も続けることができている特色のある平荘小学校であること、そして、6年生が頑張れるように地域も保護者も学校もみんなが支えていることを伝えました。



そして、そこに山口耕道先生の熱いご指導があることも再確認しました。

主役は、6年生です。6年生が、どんな狂言発表会を目指しているのかは、6年生が決めることです。6年生34人の心が一つになった発表会を目指したい。チームとして自分たち流の演目に仕上げたいと話しました。

山口耕道先生から教えていただいた、その年その年の狂言について、『自分たちで創りあげる狂言』『リレーや駅伝のように、バトンをつないでいく』『クラスみんなで仕上げていく』という意識を持って関わっていくことが大事だということも再確認しました。

みんなで、次の練習に向けて、自分たち流の『附子』『柿山伏』になるよう、クラスとしても共通理解を図れました。



1月17日（月）山口先生のご指導より

- 観客（の心）を寄せる
- 観客と演者が一体となるのが大事。観客（聞いている人）に伝わるようにする。

そのためには、しっかりと声を発する。目的を持って伝える。口形を意識し、ゆっくりと話す。声の大きさ・話す速さ・目線で距離感なども伝えていく。

- セリフは、誰に言っているのかを自分の中で明確にする。
- 動作では、何（誰）を指しているのかを、体ごと表現する。
- いつも観客のことを意識していないと伝えることはできない。



演目について

- 最初の登場の場面から最後の退場の場面までつながっている。
- 最初は、場面設定になる。
- 役になりきり、リレー形式で（駅伝の）バトンをつなぐように演じていく。

練習の心構えとしては、丸投げをしない。役の中に入り、思いを込める。

- 自分たちで場面をつくる。仲間と相談しながら、自分たちで演目を創りあげる。
- 山口耕道先生も6年生のみなさんと一緒に創りあげたい。6年生のみなさんが、自分たちで役作りをし（脚本についての解釈を自分流にし表現し）たことをもとに、アドバイスをしたい。
- その年その年、同じ演目の『附子』や『柿山伏』であっても表現の仕方は違っていい。自分たちらしさを表現してほしい。
- 自分たちの中で、狂言を創りあげていこうという思いが大事だ。



6年生の子どもたちは、先輩から受け継いだ狂言を、今年自分たちが理解・解釈し、次の学年につないでいけるように頑張っています。

今日の練習の最後に、6年生が『来週の練習では、思いを込めて頑張ろう』『オー』とかけ声をかけていました。6年生の頑張っている気持ちが伝わってきます。

